

# 水泳の効果はどの位あるか

深川尋常小學校長

稻垣知剛

▼二十三日に體量七十四匁の違ひ  
▼幼稚園を出た者は一層よい▲

暑苦しい夏が近くなつて來た、而し發育盛りの兒童にとつては之が別に苦痛とも見えない。殊に海に河に水泳を行ふ事の出來る者の爲には夏は何季よりも愉快な時である。彼等には此の季節が餘りに短少に感ぜられるのである。

されど此の兒童に最も好まるゝ水泳が、身體發育上眞に効果があるか、或は有害なものであるかといふ點について統計的に研究せられたものゝ殆ど見られないのは遺憾である。我が深川小學校は昨年七八兩月に渡る水泳を行へる兒童と、水泳を行はざる兒童との身體發育の比較をして見た。水泳期の近づける今日之を發表するのは必ずしも徒

爾であるまいと思ふ。(以下言葉の煩雜を避くる爲水泳を行へる兒童を水泳者、水泳は行はざる兒童を不水泳者と稱へることにする。)

## 水泳、不水泳者の體量比較

我が校は水泳を行ふ前の七月一日に、校醫山本氏に依頼して四學年以上の全兒童につき身長・體重・胸圍・其の他の疾病等の検査をなし、九月の初に同様の検査をした。中にも水泳者には詳細の検査を行ひ、水泳が身體上害ありと認めらるゝ者は水泳を思止まらしめた。此の水泳を停止せられたる兒童が多數ある場合には、統計比較上水泳者が已に優秀の體格を有せりといふ缺陷を生ずる憂が

あるけれども、水泳を停止せられた者は僅かに眼疾或は中耳炎を患へる者の五名に過ぎなかつた。

且又水泳者・不水泳者の數は、前者の百四十七名後者の百六十二名であつて、其の數に大差のないのは最も好都合であつた。凡そ水泳の是非を考究<sup>x</sup>

<sup>x</sup>せんとするには體育上・德育上種々なる方面より研究すべき必要があるけれども、茲では單に身體の發育如何を數によつて示し易い體量の増減のみを記すことにする。

水泳・不水泳者六十日間體量比較表

	總計數		一人平均數	
	水泳者	不水泳者	水泳者	不水泳者
人員	一四七	一六二	一	一
水泳日數	三四〇九 <sub>日</sub>	〇	二三・二 <sub>日</sub>	〇
七月一日體重 <sub>斤</sub>	一〇三二・三三〇 <sub>斤</sub>	一〇八六・六七〇 <sub>斤</sub>	七・〇二二 <sub>斤</sub>	六・七〇八 <sub>斤</sub>
九月一日同	一〇五六・四二〇 <sub>斤</sub>	一一〇一・二八〇 <sub>斤</sub>	七・一八六 <sub>斤</sub>	六・七九八 <sub>斤</sub>
六十日間増量	二四・一二〇 <sub>斤</sub>	一四・六一〇 <sub>斤</sub>	一六四 <sub>斤</sub>	九〇 <sub>斤</sub>

之によつて見るに七月一日より八月末日までの日數六十日間に實際水泳を行つた日は、昨年が平年より雨天・濁水の多かつた爲、平均二三・二日に

過ぎなかつた。此の二三日間も設備と人員の關係上實際に水泳を行へる時間は理想よりも少かつたのである。然るに水泳者は僅か六十日間に不水泳

者よりも體量が七十四匁多く増加してゐる。若し設備を一層よくし、天候が平年の如き場合には、其の効果が更に大なるべしと信ずることが出来る。

●幼稚園の保育を受けた者は

特に發育の成績がよい

此の度の體量検査に於て、偶然にも小學校入學前に一箇年乃至二箇年の幼稚園の保育を受けたる者は保育を受けざる者に比較して、其の發達の割合が特に佳良なることを發見した。次に幼稚園の保育を受けたる者について表に示して見よう。

人 員	總 計		一 人 平 均 數	
	水 泳 者	不 水 泳 者	水 泳 者	不 水 泳 者
水 泳 日 數	一 二 四 入 <sub>日</sub>	〇	二 五 〇 四 <sub>日</sub>	〇
七 月 一 日 體 量 <sub>(匁)</sub>	三 四 五 〇 七 六 〇 <sub>匁</sub>	二 六 七 五 三 〇 <sub>匁</sub>	七 〇 五 六 <sub>匁</sub>	七 〇 〇 四 <sub>匁</sub>
九 月 一 日 同	三 五 六 〇 六 六 〇 <sub>匁</sub>	二 七 四 〇 三 五 〇 <sub>匁</sub>	七 二 七 八 <sub>匁</sub>	七 二 一 九 <sub>匁</sub>
六 十 日 間 増 量	一 〇 〇 九 〇 〇 <sub>匁</sub>	六 〇 八 二 〇 <sub>匁</sub>	二 二 二 <sub>匁</sub>	一 七 九 <sub>匁</sub>

此の表によれば幼稚園修了者は不水泳者に於ても全體の九〇匁に對する一七九匁といふ著しく良好なる發達を示し、水泳者に於ても一六四匁に對する二二二匁といふ好成绩を見ることが出来る。

其の原因は一般に家庭の生活状態に於て、幼稚園修了者が他に比して幾分か餘裕あり、規則的であることによるのも確であらうけれども、一面幼稚園保育の効果が與つて力あることを信じなければ

ならない。

東京市の如く戸口が稠密で、児童遊歩の場所が狭く、小學校入學前の幼児にとつて、日中の遊歩に困難なる土地には、幼稚園の如き機關が幼児に與ふる効果の大なるべきはいふまでもない。特に心身發育の最も旺盛なる學齡前に理論と實際とによつて理想的に幼児を發育せしめんと研究努力しつゝある幼稚園保育の効果は、多くの家庭が別に何等の案を具ふることなく放任しつゝある今日の家庭教育の状態にありては、其の効果確に大なるものである。

而して幼児期に受けたる良効果は一生を通じて其の効を表はし、保育修了後已に數年を費したる今日に於ても、猶斯くの如き良結果を見ることが出来るのである。之は單に體格の上のみでなく學業成績の上に於ても見ることが出来る。問題が少しく横道にはいるが、我が校は幼稚園保育修了者と、保育を受けざる児童と約半數づゝより編制したる學級を同一教師に擔任せしめ成績の優劣を毎

學期比較せしめてゐる。これによれば大抵の學科に於て十點法の採點法により、前者は常に一點強の優秀の成績を表はしてゐる。此の統計は教師の異なる場合に於ては、採點比較上の誤りを生ずるけれども、同一教師の同一方針による教授に於て差異あるは、其の原因の一部が幼稚園保育の効果であるに相違ない。

#### ●水泳による害は如何程なりしか

水泳後即ち九月に於て、水泳兒童の様子を見るに、不水泳者に對して體量の増加を示すのみならず皮膚の色黒く、元氣旺盛に見られた、此の點は誰にも特に比較して見なくとも斯く想像されることであるが、其の半面最も心配さるゝのは、水泳による疾病・外傷・精神的悪影響等である。然るに百數十名の兒童中水泳によつて害を蒙りたりと認めらるゝ者は殆どなく、僅に其の中の二名が足部に貝殻の爲負傷し入水を中途に禁じたに過ぎないで、之も間も無く回復した要するに水泳は或る特殊の兒童を除く外効果大なりと認むることが出来る。